

日台老年歯科医学会合同シンポジウム | 特別講演

高齢者の MRONJ（薬剤関連顎骨壊死）の最新像

座長: 下山 和弘(東京医科歯科大学歯学部)、小野 高裕(新潟大学大学院医歯学総合研究科包括歯科補綴学分野)

Fri. Jun 22, 2018 3:50 PM - 5:00 PM 第1会場 (8F 大ホール)

【下山 和弘先生略歴】

- 1979年3月 東京医科歯科大学歯学部卒業
- 1983年3月 東京医科歯科大学大学院歯科補綴学専攻修了・歯学博士
- 1983年4月 東京医科歯科大学歯学部附属病院医員
- 1984年1月 東京医科歯科大学歯学部助手
- 1991年5月 東京医科歯科大学歯学部附属病院講師
- 2000年4月 東京医科歯科大学大学院助教授
- 2004年4月 東京医科歯科大学歯学部教授

【小野 高裕先生略歴】

- 1983年 広島大学歯学部卒業
- 1987年 大阪大学大学院歯学研究科修了（歯学博士）
- 1998年 大阪大学歯学部助教授
- 2014年 新潟大学大学院医歯学総合研究科包括歯科補綴学分野 教授
- 2017年 新潟大学評議員，医歯学系副学系長，副歯学部長

東京医科歯科大学，大阪大学，東北大学，北海道大学，九州大学，京都学園大学の非常勤講師

学会活動：日本補綴歯科学会，日本老年歯科医学会，日本顎顔面補綴学会，日本咀嚼学会，日本顎口腔機能学会の各理事

【抄録】

日本老年歯科医学会は，2014年7月に台湾老年歯科医学会と交流協定を結んで以来，活発な学術交流を進めています。本学会学術大会における合同シンポジウムは，第27回学術大会（2016年6月）以来2回目となりますが，今回は高齢者の歯科治療において大きな懸念事項となっているMRONJ（薬剤関連顎骨壊死）をテーマに取り上げます。

講師には，日本と台湾におけるこの分野の臨床・研究の第一人者である岸本先生（兵庫医科大学）と鄧先生（高雄医科大学）のお二人をお迎えし，MRONJに関する病態や発症頻度に対する基本的理解，予防と対応策，医科歯科連携の重要性などについて，限られた時間の中でコンパクトにまとめた最新情報を提供いただけることになっています。

鄧先生のご講演は英語ですが，スライドは日本語訳を用意する予定です。高齢者歯科の日常臨床に有益な情報を共有する機会として，多くの会員の皆様の聴講をお待ちしています。

[S2-2]本邦における骨吸収抑制薬関連顎骨壊死・顎骨骨髓炎の現況

○岸本 裕充¹ (1. 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座)

【略歴】

- 1989年 大阪大学歯学部卒業
- 1989年 兵庫医科大学病院臨床研修医（歯科口腔外科）
- 1996年 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 助手
- 2002年～2004年 米国インディアナ大学医学部外科博士研究員
- 2005年 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 講師
- 2009年 同 准教授
- 2013年 同 主任教授，現在にいたる

日本口腔外科学会認定 口腔外科専門医，同 指導医
日本口腔感染症学会 専務理事

ビスホスホネート（BPs）の投与に関連した顎骨壊死が2003年に米国から報告されて、約15年が経過した。BPsは悪性腫瘍の骨病変の治療だけでなく、骨粗鬆症患者の骨折予防の目的にも使用され、わが国では100万人以上の患者に投与されている。顎骨壊死という病名が一般的であるが、実際には顎骨骨髓炎を呈する患者が多く、また BPsとは異なる作用機序で骨吸収を抑制するデノスマブによっても、酷似した病態を生じることが明らかになってきた。わが国の2006～2008年と2011～2013年の2度の全国調査を比較すると、患者数は10倍以上に増加している。その背景として、BPsとデノスマブに大量・長期に曝露する患者の増加とともに、タイムリーに適切な歯科治療が提供されていないことが誘因として推察される。